

リモコンエンジンスターター

Engsta **L** III

エンスタ・エルⅢ

取付・取扱説明書

(保証書付)

⚠ 警告 お取り付けには専門知識が必要です。

お取り付けは、販売店、又はカーディーラー等の専門店にご依頼下さい。お客様ご自身で取り付けられた場合の保証は受けられません。又、本機を取り付けた事による、車両や車載品の故障、事故等の付随的損害については、一切その責任を負いません。

⚠ 警告 本商品は、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。分解したり改造したりする事は法律で禁じられていますので、絶対に行わないで下さい。リモコンケースの裏面に貼られている技術基準適合証明ラベルは、はがさないで下さい。このラベルがはがれた状態で使用すると電波法違反となります。

⚠ 注意 このエンジンスターターは、お取り付け時に初期設定(オートマチック車の登録等)^{*}を行わないとエンジンを始動する事が出来ません。又、バッテリー交換や整備等によりバッテリー端子を外すと、初期設定は消去されますので、再度設定する必要があります。詳しくは、本冊子10ページを参照願います。 ※キー始動学習設定やターボタイマー設定情報も同様に消去されます。

はじめに

このたびは、本商品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。ご使用になる前に、本冊子を必ずお読み頂き、正しくご使用下さい。又、お読みになった後も本冊子は車検証入れなどに保管して下さい。そして、本商品を譲渡される場合や別のお車に取り付け直す場合も、本冊子を必ず製品に付帯させ、お使いになる方がいつでも見られる様にして下さい。又、コーションラベルも販売店から購入して下さい。本商品は日本国内でのみご使用出来ます。

△注意 リモコン取り扱い上のお願い

- ・リモコンは防水仕様になっておりませんので、風呂場など湿気の多い場所でのご使用はおやめ下さい。又、雨や雪などがかからないようにご注意ください。尚、濡れた手で触ったり、ロッドアンテナに水がついたまま収納しますと内部に水が入り、故障の原因となります。これら水濡れによる故障は保証対象外となります。水に濡れた場合は電池プタを外し電池を抜いて、風通しの良い所で乾かす等、完全に乾いてからご使用下さい。
- ・リモコンを多くの物が詰まった荷物の中に入れてたり、衣服のポケット等に入れて無理な力をかけないで下さい。内部基板等の破損/故障の原因となります。
- ・リモコンをエアコンの吹き出し口など急激な温度変化のある場所に置かないで下さい。結露により内部が腐食し故障の原因となります。

△注意 アイドリング中の車両電装品のスイッチ操作について

リモコンエンジンスターターをご利用になる際は、エアコン(ヒーター)以外の電装品(ワイパー、シートヒーター、熱線など)のスイッチは事前に切ってご利用下さい。車種によってはアイドリング中の電流過多により、リモコンエンジンスターターのヒューズが切れる場合があります。

△注意 駐車について

お車を駐車する際は必ずシフトレバーをPポジション(レンジ)に入れてご使用下さい。リモコンでエンジンを始動して走行を行い、その後キーでエンジンを止めた場合、一部のお車ではキーがPポジション以外の位置でも抜ける場合があります。これはお車の仕様によるもので異常ではありません。駐車する際は、必ずPポジションの位置を確認して(Pブレーキをかけて)キーを抜いて下さい。尚、ドア配線等を行う乗車前に一旦エンジンを止め、キーで再始動すればPポジション以外で抜けることはありません。

△注意 VSA装着車について

ホンダのVSA[®] 装着車(CR-V及びアコード、トルネオ等)の一部に、リモコン始動後VSAの表示が消灯しない場合があります。これは、お車のVSA表示システムとエンジンスターターの動作タイミングが異なるためで異常ではありません。走行前に一旦エンジンを止めて再度キーにてエンジン始動を行って下さい。尚、ドアスイッチへの配線を行うことで、ドアを開けると同時にエンジンを停止させることも出来ます。

注:VSA(ビークル スタビリティ アシスト):ブレーキ時の車輪ロックを防ぐABSと、加速時の車輪空転を防ぐTCSに、旋回時の横すべり抑制を加えた、車両挙動安定化制御システム

△注意 レーダーオートクルーズ装着車について

ホンダのレーダーオートクルーズ装着車(アヴァンシア等)の一部に、学習設定を行わずエンスタを取り付け、リモコン始動後、走行した場合オートクルーズ機能が働かないことがあります。これは、お車とエンジンスターターの動作タイミングが異なるためで異常ではありません。お取り付け時に必ずキー始動学習設定を行って下さい。尚、キー始動学習設定の詳細は本冊子17ページを参照願います。




△注意 環境へのご配慮について

- ・地球環境保全の為、暖機運転の時間は必要最小限にとどめて下さい。又、不必要な暖機運転は行わないようにして下さい。暖機運転により発生する、二酸化炭素は地球温暖化、排気ガスは大気汚染の原因になります。
- ・暖機運転設定時間の目安
- ・車両計器盤の水温計が所定の位置まで上がれば十分です。ご使用の車種、季節などを考慮し、適切な時間で設定して下さい。
- ・アイドリングの影響
- ・一般的な乗用車で、10分間のアイドリングにより約0.14リットルのガソリンを消費し、それにより約90グラムの二酸化炭素が発生するといわれています。

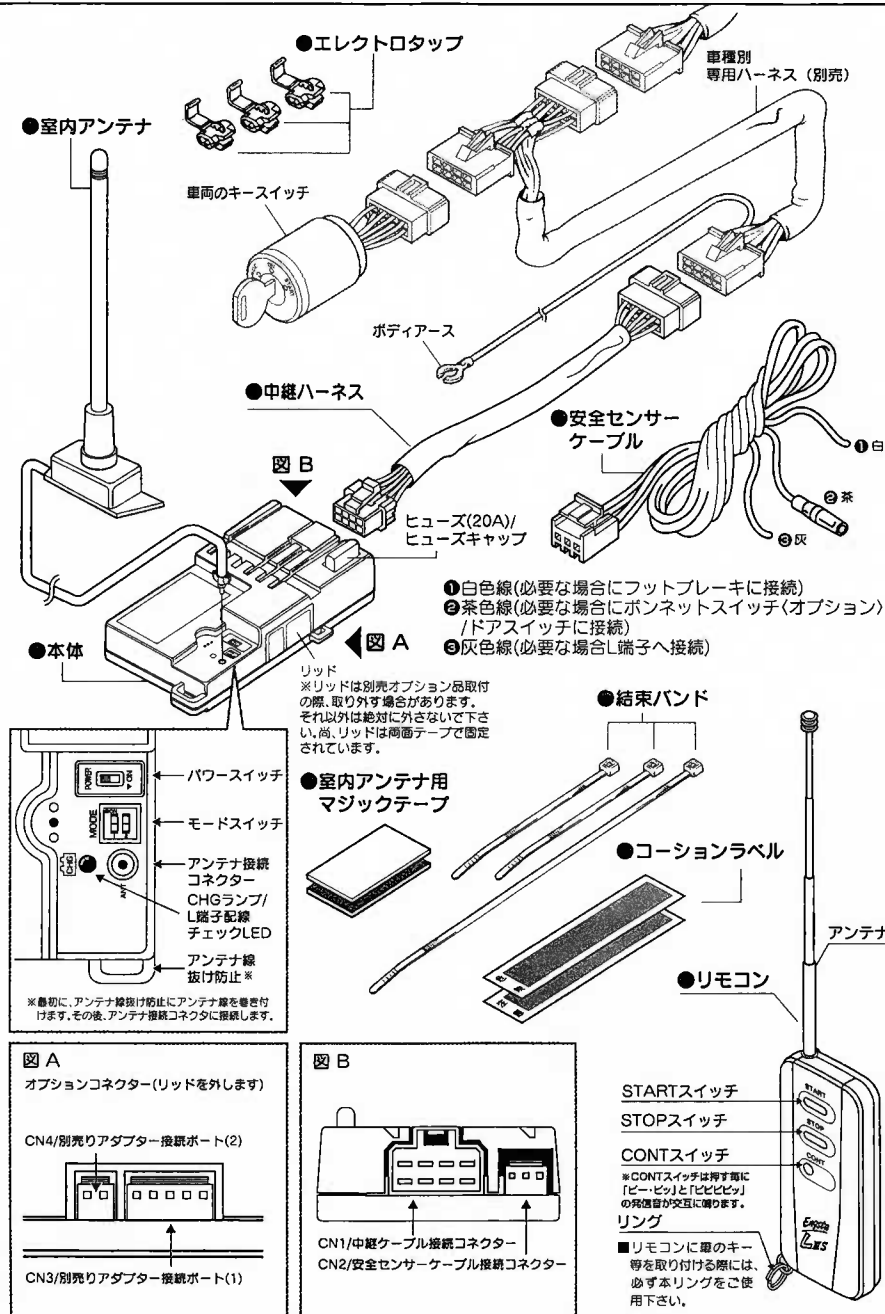
- パッケージ内容 4ページ
- ▼お取り付け手順 5ページ
 - 本体モードスイッチメニュー
 - ブザー音一覧表
- お取り付け出来る車は・・・ 6ページ
- お取り付けの前に 7ページ
- 車種別専用ハーネスの取り付け 8-9ページ
- オートマチック車の登録 10ページ
- ▼動作確認を行います 11ページ
 - 動作確認で下記の症状になった場合
- ▼各種お取り付けを行います 12ページ
 - L端子検出へ変更
- ▼各種機能 13ページ
 - L端子誤配線チェック機能
- ▼各種お取り付けを行います 14-16ページ
 - フットブレーキ検出へ変更 14ページ
 - 室内アンテナの取り付け 15ページ
 - 本体の取り付け 15ページ
 - コーションラベルの貼り付け 15ページ
 - ボンネットスイッチを取り付ける場合 16ページ
 - ドアスイッチ配線を行う場合 16ページ
- ▼各種機能 17ページ
 - キー始動学習設定
- ▼ご使用上の注意 18-21ページ
 - 純正オートライト装着車について 18ページ
 - 純正オートチルト装着車について 18ページ
 - 純正キーレス装着車について 18ページ
 - リモコン送信について 18ページ
 - 電波到達距離について 19ページ

- ▼ご使用方法 22-27ページ
 - リモコンでエンジン始動 22ページ
 - リモコンでエンジン停止 22ページ
 - タイマーで自動停止 22ページ
 - リモコンで外部機器制御 22ページ
 - 本体動作の停止 23ページ
 - 本体動作の復帰 23ページ
 - ターボタイマーの設定/解除 24ページ
 - アイドリング時間の設定 25ページ
 - 始動パターンの切替 26ページ
 - ターボタイマーの使用法 27ページ
 - リモコンでターボタイマー停止 27ページ
 - スリープ機能について 27ページ
- ▼メンテナンス 28ページ
 - 電池の交換方法
 - 本体の電源を切る時は
 - リモコンを紛失した時は
- 故障とお考えになる前に 29ページ
- 仕様 30ページ
- 別売りアダプター 30ページ
- アフターサービスについて 31ページ
- 保証規定 31ページ
- 保証書 裏表紙

この取付・取扱説明書では安全上重要な項目に下記のマークを表示しています。

-  **危険** 死亡を含む重大事故の原因と成り得る事を意味する。
-  **警告** 死亡を含む重大事故に至る可能性がある事を意味する。
又、法律に違反する事を意味する。
-  **注意** 人身事故の原因と成り得る事を意味する。
又、車や商品の損傷、故障等の原因と成り得る事を意味する。

●パッケージ内容

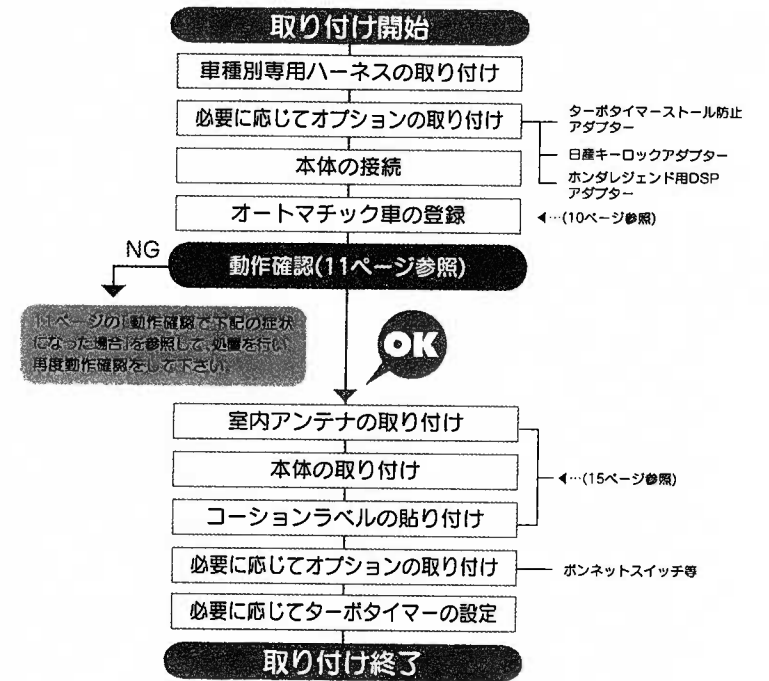


●お取り付け手順



注意

オートマチック車の登録操作を行わないと、本体は動作しません。



■本体モードスイッチメニュー

(商品出荷時は全てOFFとなっております)

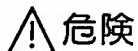
モードメニュー	OFF	ON
シフト検出	シフトポジション自動検出	キャンセル(通常使用しません) *フットブレーキへの配線が必要です。
始動検出	当社専用回路にて、エンジンの始動状態を検出	オルタネーターのL端子線の電圧変化のみで、エンジンの始動状態を検出する。 *L端子への配線が必要です。

■ブザー音一覧表

(オートマチック車登録や各種機能設定時の反応音を除く)

ブザー音	本体のブザーが鳴る場合
ブツブツブツ	●本体の電源が入った場合。
ブツブツ	●リモコンでエンジンが始動した場合。
ブツブツ	●リモコンでエンジン駆動中。 リモコン始動直後から5秒間隔(アイドリング20分モード)で鳴り始め、残り時間に運動して徐々に短くなります。自動停止直前(1分前)は連続音になります。
ブツブツ	●ターボタイマーでエンジン駆動中。 ターボタイマー作動直後から1秒間隔で鳴り始め、残り時間に運動して徐々に短くなります。自動停止直前(1秒前)は連続音になります。
ブツブツ	●スリープから復帰した場合。
ブツブツ	●リモコンでエンジンが始動しない場合。
ブツブツ	●リモコンでエンジン駆動中にエンストした場合。
ブツブツ	●リモコンでエンジン始動時にバッテリー電圧が低い場合。
ブツブツ (繰り返し)	●車両との相性が悪い(悪くなった)場合。 リモコンのスタートスイッチを押してもエンジンが始動せず警告音が鳴り続ける。 *技術サービスへお問い合わせ下さい。★警告音はキーをONにすれば停止します。

●お取り付け出来る車は…



危険
詳しくは、最新の弊社「車種別専用ハーネス適応表」をご覧ください。

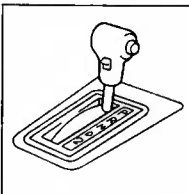
- 国産車のみ、お取り付け可能です。
外国車へのお取り付けは出来ません。

国産車



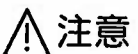
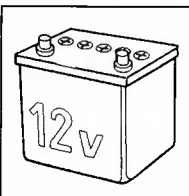
危険

- オートマチック車のみ、お取り付け可能です。
マニュアルミッション車へのお取り付けは出来ません。重大事故の原因となりますので必ずオートマチック車で使用して下さい。



危険

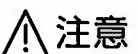
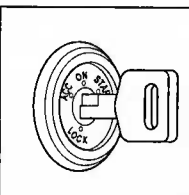
- 12V車のみ、お取り付け可能です。
24V車へのお取り付けは出来ません。



注意

- 電子制御燃料噴射装置搭載車のみ、お取り付け可能です。

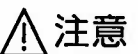
電子制御燃料噴射装置搭載車、及び一部のディーゼル車で、イグニッションキーのみでエンジンを始動することが出来るお車のみ、お取り付け可能です。
エンジン始動時にアクセル操作やチョークレバー操作を必要とするお車、電子制御キャブレター搭載車へのお取り付けは出来ません。



注意

- 純正キーフリーシステム非搭載車

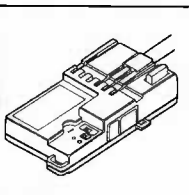
詳細は、最新の弊社「車種別専用ハーネス適応表」をご覧ください。



注意

- 単体でのみ、お取り付け可能です。

他社製エンジンスターター、もしくはターボタイマーが取り付けられているお車にはお取り付け出来ません。(併用すると、それぞれが正しく動作しない恐れがあります。)

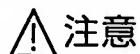
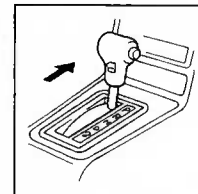


●お取り付けの前に



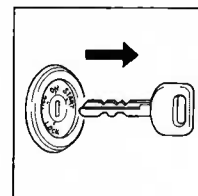
危険

- シフトレバーは、必ずPレンジに入れて下さい。



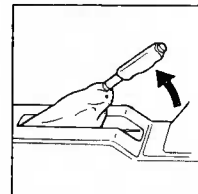
注意

- お車のキーは必ず抜いて下さい。



危険

- パーキングブレーキは確実にかけて下さい。



警告

最新の弊社「車種別専用ハーネス適応表（別冊）」をよくご覧になり、お車に合った当社製専用ハーネスをご使用下さい。

- 他社製のハーネスは使用しないで下さい。

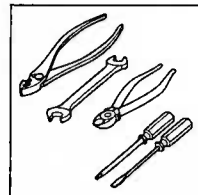
他社製エンジンスターター、もしくはターボタイマー用ハーネスを流用・加工しての取り付けは絶対にしないで下さい。車両故障、商品故障の恐れがあります。又、保証対象外になります。



工具は別途ご用意下さい。

- 取り付け工具について。

この商品を取り付ける際に必要な工具は一般的には次の通りです。
プラスドライバー・プライヤー・ニッパ・スパナ等。



警告

- お取り付けには専門知識が必要です。

お取り付けは、販売店、又はカーディーラー等の専門店にご依頼下さい。お客様ご自身で取り付けられた場合の保証は受けられません。又、本機を取り付けたことによる、車両や車載品の故障、事故等の付随的損害については、一切その責任を負いません。

●車種別専用ハーネスの取り付け



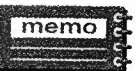
キースイッチの配線カブラーは基本的には車種別専用ハーネスのカブラーと同形状なのでそれを目安にしましょう。



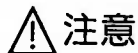
アンダーカバーを取り外す際、車種によってはスピーカーカバー内や、コインボックス等に隠しネジが付いている場合があります。



ステアリングコラムカバーを取り外す際、車種によってはステアリングを90度回さないとネジが外せない場合があります。



ンダ車の多くがこのタイプです。



専用ハーネスが2本に分かれているので、必ず全てのカブラーを接続して下さい。

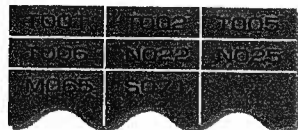
STEP-1 ●キースイッチの配線カブラーを探します。

配線カブラーの位置は大別すると次の4タイプになります。
詳しくは、最新の弊社「車種別専用ハーネス適応表」をご参照下さい。

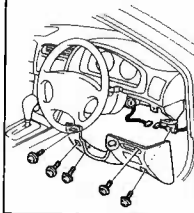
■タイプ1

●キーシリンダーより出ている配線の約20~30cm先にカブラーが位置しているタイプ。

専用ハーネス参考例



T001 接続例



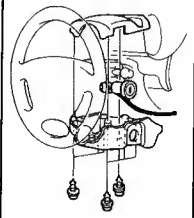
■タイプ2

●キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ。

専用ハーネス参考例



T003 接続例



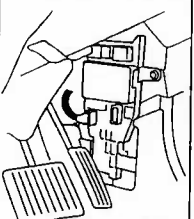
■タイプ3

●ヒューズボックスやジャンクションブロックに直接接続されているタイプ。

専用ハーネス参考例



H048 接続例



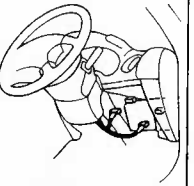
■タイプ4

●配線カブラーが2箇所に分かれているタイプ。それぞれの位置が離れているものもあります。

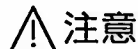
専用ハーネス参考例



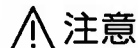
H044 接続例



●車種別専用ハーネスの取り付け



カブラーの接続は振動等で外れないように、最後まで確実に差し込んで下さい。

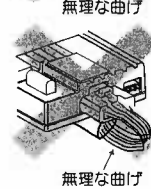
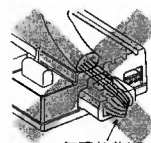


塗装されている金属部分や、車の振動等で緩んでしまう場所に取り付けると、本体がうまく動作しない事があります。



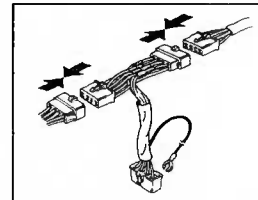
警告 重大な事故のおそれあり

中継ハーネスの本体根元付近を強く曲げる等無理な力が加かった状態で固定・取付けると動作時にカブラー端子が高熱となり、カブラーが焦げる等動作しなくなるだけでなく、重大な事故につながるおそれがあります。



STEP-2 ●専用ハーネスを接続します。

見つけたキースイッチの配線カブラーを、一旦外します。
車種別専用ハーネスを、外したカブラーの間に割り込ませます。



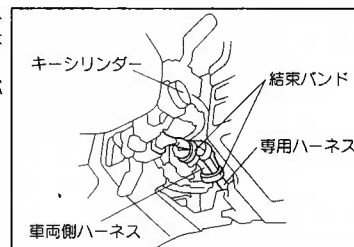
STEP-3 ●アース線を接続します。

車種別専用ハーネスから出ている黒色アース線を、車体の金属部分に確実に締め付けます。アース線接続が不完全な場合、動作が不安定となり、オートマチック車の登録情報が消去されたり、エンジン始動しない等の不具合が生じます。接続箇所を十分確認の上、適正な場所に接続して下さい。

取り付けに適している場所(ナット)	取り付けに適していない場所(ネジ)
<ul style="list-style-type: none"> ●純正車両電装品のアースポイントに使用されているナット。 ●車体金属部分に止められた非塗装で大きめのナット。 <p>黒色アース線</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●アンダーダッシュやセンターコンソール等、樹脂を止めているネジ。 ●メッキや塗装により、電導率の低下した金属部分に止められたネジ。

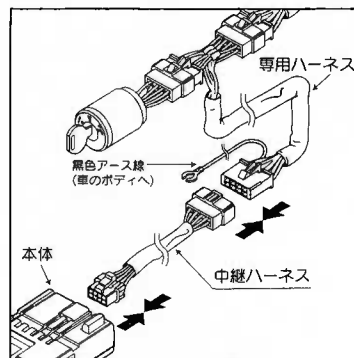
STEP-4 ●専用ハーネスを固定します。

専用ハーネス及び中継ハーネスはカブラーの端子に無理な力が掛からない様に配置して、振動等で動かない様に結束バンド等を用いて固定して下さい。



STEP-5 ●本体を接続します。

本体に中継ハーネスを接続し、専用ハーネスの残りのカブラーと接続します。



●オートマチック車の登録 ※以下の操作はエンジンを始動させずに行ってください。

⚠ 注意

オートマチック車の登録は専用ハーネスの接続後行って下さい。また接続前に、本体のパワースイッチはONにしないで下さい。



断続音がしない場合は、アースが確実にとれているか、又ハーネスの配番が正しいか確認して下さい。

⚠ 注意

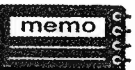
STEP-2ではエンジンは始動させないで下さい。

⚠ 注意

シフト操作は、ブレーキを踏んでゆっくり操作して下さい。

⚠ 注意

断続音に変化した事を必ず確認して下さい。



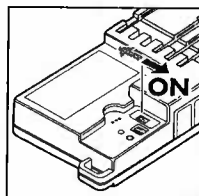
断続音に変化しない場合は、一旦パワースイッチをOFFにして、専用ハーネスの全ての配線が接続されているかを確認して下さい。

⚠ 注意

車両のバッテリー端子を外したり、専用ハーネスやアース線を外すとオートマチック車の登録情報が消去されます。この場合には、再度オートマチック車の登録を行ってください。

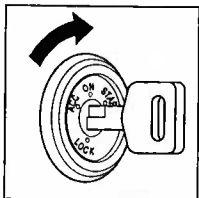
STEP-1 ●本体のパワースイッチをONにします。

この時本体から、ブープ…と断続音がします。



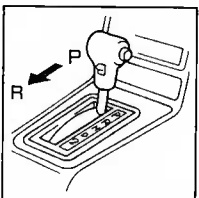
STEP-2 ●キーをさし込み、ONの位置にします。

この時本体からでる断続音が、ププッ ププッ ププッ…へと変化する事を確認します。



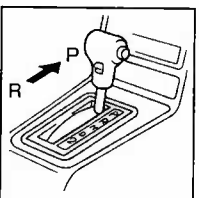
STEP-3 ●シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かします。

本体からでる断続音が、ププッ ププッ ププッ…へと変化する事を確認します。



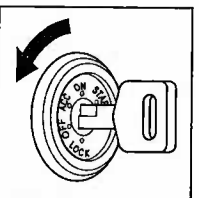
STEP-4 ●シフトレバーをRレンジからPレンジへと戻します。

この時本体からでる断続音が、ププッ プーと鳴り、オートマチック車の登録が終わった事を知らせます。



STEP-5 ●キーをOFFの位置に戻し、抜き取ります。

OK 以上でオートマチック車の登録は終了です。



●動作確認を行います

⚠ 危険

安全の為、パーキングブレーキをしっかりとかけて下さい。重大事故につながる恐れがあります。



エンジン始動後は、本体から警告音(ブツ)が数秒間隔で鳴り始め、アイドリングの残り時間に応じて間隔が短くなり、連続音へと変わります。

⚠ 注意

車種によっては、キーをACCの位置にしないとシフトレバーが動かさないものもあります。その場合は、キーをACCの位置まで回して確認して下さい。

⚠ 注意

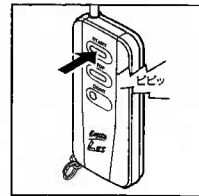
右に記載している症状は、取付時に発生しなくても、数日後に発生する場合があります。症状が発見された時点で処置して下さい。

⚠ 注意

一部のお車(マツダ:ボンゴ・フレンディ等)で、お取り付け直後のリモコン始動は出来るのに、二回目からのリモコン始動が出来ない(メーターパネルが点灯してもセルモーターが駆動せずリトライする)場合があります。この場合には、17ページの「キー始動学習機能」を行ってください。

STEP-1 ●リモコンのスタートスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、スタートスイッチ音(ピピッ)が鳴るまで押します。

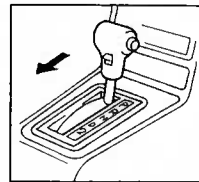


STEP-2 ●お車のエンジンが始動します。

本体が信号を受信すると、まずメーターパネルが点灯します。そして数秒後にセルモーターが回りエンジンが始動します。一度で始動しない場合は、3回まで自動的に再始動(リトライ)します。

STEP-3 ●シフトセンサーの確認をします。

リモコンでエンジンを始動させた後、キーを差し込まずにフットブレーキをしっかりと踏みながら、シフトレバーをゆっくりとPレンジからRレンジへと動かします。この時エンジンが止まる事を確認します。車種によっては、キーをACCの位置にしないとシフトレバーが動かさないものもあります。



OK 以上動作確認は終了です。

■動作確認で下記の症状になった場合

症状

エンジンは始動しているのに数秒で停止してしまい、自動的に再始動(リトライ)が行われてしまう場合、又はエンジンは始動していないのにメーターパネルが点灯したままになってしまう場合は…

L端子検出へ変更

エンジンの自動始動検出が、うまく行われていないと考えられます。詳しくは、12ページの「L端子検出へ変更」を参照して下さい。

症状

一部のディーゼル車等で、寒冷時に始動がうまく行われない場合は…

始動パターン切替

グロー(予熱)時間がたりない事が考えられます。詳しくは、26ページの「始動パターンの切替」を参照して下さい。

症状

セルモーターの駆動時間が短いために、1回目のセル駆動でエンジンが始動せず、リトライしてしまう場合は…

セル時間延長

セルモーターの駆動時間を学習させる事が出来ます。詳しくは、17ページの「キー始動学習機能」を参照して下さい。

症状

リモコン始動後にABS警告灯等が消灯しない場合は…

ABS警告灯対応

キー始動学習を行う事で警告灯が消灯するようになります。詳しくは、17ページの「キー始動学習機能」を参照して下さい。

症状

リモコンでエンジン始動後、シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かしてもエンジンが停止しない場合は…

フットブレーキ検出

オートマチックシフトの検出がうまく行われていないと考えられます。詳しくは、14ページの「フットブレーキ検出へ変更」を参照して下さい。

●各種お取り付けを行います

■L端子検出へ変更

(動作確認後、必要な場合のみ)

L端子検出へ変更

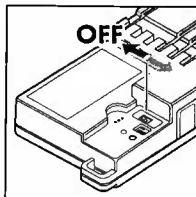


●ディーゼル車や軽自動車等でエンジンは始動しているのに数秒でエンジンが停止してしまい、自動的に再始動(リトライ)が行われてしまう場合(又は、エンジンは始動していないのにメーターパネルが点灯したままになってしまう場合)L端子の配線が必要です。

STEP-1

●一旦本体のパワースイッチを切ります。

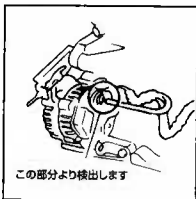
フットブレーキ配線等を行った車両は、安全センサーケーブルが本体に接続されているので、一旦外して下さい。



STEP-2

●車両のオルタネーターから出ているL端子線を探します。

L端子線とはイグニッションONの時1~3V、エンジン駆動中12~14Vになる線です。(必ずテスターをご使用下さい。)

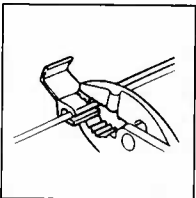


この部分より検出します

STEP-3

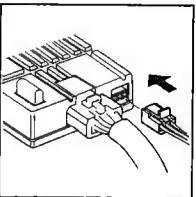
●安全センサーケーブルの灰色線を接続します。

付属の安全センサーケーブルの灰色線を、車室内からエンジンルームに引き込み、オルタネーターから出ているL端子線に、付属のエレクトロタップで接続します。



STEP-4

●安全センサーケーブルを本体に接続します。



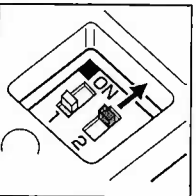
STEP-5

●モードスイッチの2番をONにします。

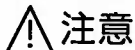


以上でL端子検出への変更は終了です。

パワースイッチをONにしてリモコンで問題なくエンジン始動出来る事を確認して下さい。L端子配線が正しく接続されているか確認する事が出来ます。詳しくは13ページの「L端子誤配線チェック機能」を参照して下さい。

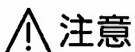


車両によって車室内からL端子線を接続出来るお車もあります。詳しくは技術サービスまでお問い合わせ下さい。



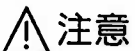
注意

接触不良がおきない様に確実に取り付けて下さい。



注意

灰色線がボディの金属部分に触れると、ショートを起こし車両故障の原因になる恐れがあります。



注意

お取り付け時はリモコン始動出来ても、寒い時や暑い時に再始動してエンジンが始動しない場合はL端子配線が必要です。

●各種機能

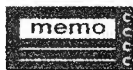


「CHGランプ」は車両の充電警告灯(チャージランプ)の点灯、消灯と連動してL端子の誤配線をチェックする機能です。



注意

この時、エンジン始動させないで下さい。



L端子配線が外れたり、接触不良になっていると、キー操作でエンジン始動した30秒後に警告音(ビービー)が鳴り、お知らせします。

■L端子誤配線チェック機能



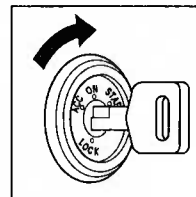
●L端子配線が正しく接続されているか否かを、本体の「CHGランプ」の動作で確認する事が出来ます。尚、この機能は「モードスイッチの2番がONの時」にのみ行う事が出来ます。

STEP-1

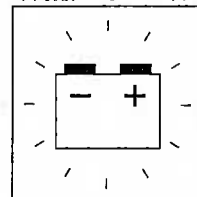
●キーを差し込みONの位置にします。

この時、「CHGランプ」が点灯することを確認します。(点灯したらSTEP-2へ進んで下さい。)

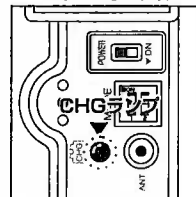
「CHGランプ」が点灯しない場合、L端子配線の接続先の間違いや接触不良が考えられます。(イグニッションON時に、約7V以上を検出しています。)



車両側メーターパネル



インスタ本体

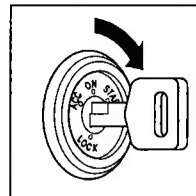


STEP-2

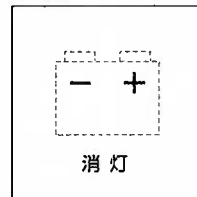
●上記操作後30秒以内に、キー操作でエンジンを始動します。

エンジンが始動すると同時に「CHGランプ」が消灯すれば、L端子配線は正しく接続されています。

「CHGランプ」が消灯しない場合、L端子配線が間違っていると考えられますので配線先を見直して下さい。(エンジン始動後も約7V未満を検出しています。)尚、30秒以内に操作が完了しないと、確認が出来ません。時間が過ぎると、警告音(ビービー)がして「CHGランプ」は消灯します。

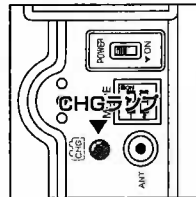


車両側メーターパネル



消灯

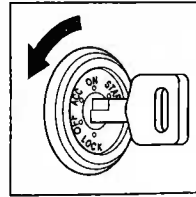
インスタ本体



STEP-3

●キーをOFFにしてエンジンを停止します。

CHGランプが正常に動作しなかった場合は、配線を見直して下さい。詳しくは、12ページの「L端子検出へ変更」を参照して下さい。



以上でL端子誤配線チェックは終了です。

●各種お取り付けを行います

■フットブレーキ検出へ変更

(動作確認後、必要な場合のみ)

フット
ブレーキ検出

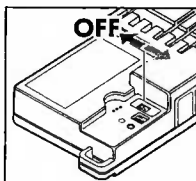


●フットブレーキ検出を行う事により、リモコンでのエンジン始動中に、フットブレーキを踏む事でエンジンを停止させる事が出来るようになります。

STEP-1

●一旦本体の電源スイッチを切ります。

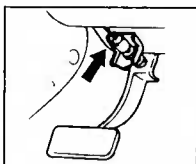
端子配線等を行った車両は、安全センサーケーブルが本体に接続されているので、一旦外して下さい。



STEP-2

●車両のフットブレーキスイッチを探します。

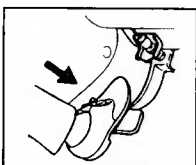
フットブレーキスイッチはブレーキアームの根元付近にあります。



STEP-3

●ブレーキペダルを踏んだ時に、約12Vの電圧が発生する線を見つけてみます。

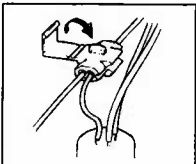
フットブレーキスイッチから出ている線の内、ブレーキペダルを踏まない時は0V、踏んだ時に約12Vになる線を見つけて下さい。(必ずテスターをご使用下さい。)



STEP-4

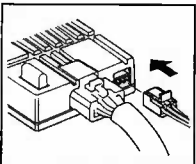
●安全センサーケーブルの白色線を接続します。

付属の安全センサーケーブルの白色線をSTEP-3で見つけた配線に付属のエレクトロタップで接続します。



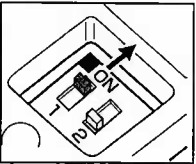
STEP-5

●安全センサーケーブルを本体に接続します。



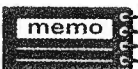
STEP-6

●モードスイッチの1番をONにします。

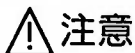


以上でフットブレーキ検出への変更は終了です。

電源スイッチをONにしてリモコンでエンジン始動後、フットブレーキを踏んでエンジンが停止する事を確認して下さい。



フットブレーキとは、フットパーキングブレーキの事ではありません。又、配線の接続先は、お車のストップランプを点灯させる為の線です。



注意

接触不良がおきない様に確実に取り付けして下さい。

●各種お取り付けを行います



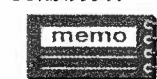
警告

エアバッグ装着車は、エアバッグカバー部には固定しないで下さい。エアバッグ作動時にケガをする恐れがあります。



警告

室内アンテナを座席背りに設置しないで下さい。急ブレーキ等により身体が前方に倒れた際、室内アンテナに顔面をぶつけてケガをする恐れがあります。



別売りの「延長コード」をご使用になることでダッシュボード以外への取り付けも可能です。



警告

配線コードが狭み込まれたりすると、断線やショートの原因となり、本体や車両の故障、さらには車両火災を起こす可能性があります。



警告

本体は、直射日光の当たる場所、エアコンの吹き出し口等、高温になる場所や足下の水の跳ね返りや外部からの水の触れる場所には設置しないで下さい。



警告

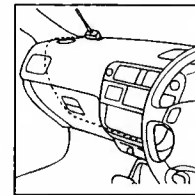
ボンネットを開けて作業をしている際に、誤って始動操作が行われると大変危険です。必ず目立つ場所に貼って下さい。

■室内アンテナの取り付け

STEP-1

●室内アンテナを取り付けます。

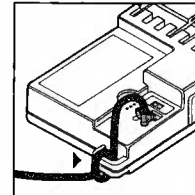
ダッシュボードサイドのピラーから10cm以上離し、出来るだけフロントガラスに近い平らな場所に設置して下さい。この際、アンテナエレメントがフロントガラスと平行になる様に座金の角度を調節します。尚、角度の調節は、アンテナエレメントにストレスをかけない様に基台をしっかり押さえて行って下さい。



STEP-2

●本体のアンテナジャックにアンテナ線を差し込みます。

最初に、アンテナ線抜け防止にアンテナ線を巻き付けます。その後、アンテナジャック(アンテナ接続コネクタ)に差し込みます。



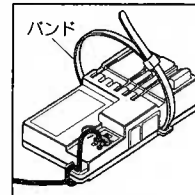
▲ 抜け防止位置

■本体の取り付け

STEP-1

●本体を取り付けます。

本体及び配線ケーブルは、車両の可動部(チルトステアリング、アクセル、ブレーキ、パーキングブレーキ、アクセルリンク等)に支障をきたさぬ場所に設置し、付属の結束バンドで確実に固定して下さい。本体の取り付けが不完全な場合、落下等で運転に支障をきたし、重大な事故につながる恐れがあります。



STEP-2

●外したアンダーカバー等を取り付けます。

■コーションラベルの貼り付け



●エンジンルーム内の目立つ場所に必ず貼って下さい。貼り付ける際には汚れや油分等をきれいに除去して下さい。



以上で取り付けは終了です。

●各種お取り付けを行います

⚠注意

ボンネットスイッチ(別売)とドアスイッチの両方を接続した場合、ボンネットを開けた時もルームランプや、半ドア警告灯が点灯します。整備等で長時間ボンネットを開けたままにされる場合には、ルームランプのスイッチをお切り下さい。

■ボンネットスイッチを取り付ける場合



●ボンネットスイッチ(別売)の取り付けを行う事により、ボンネットが開いている時には、リモコンでのエンジン始動が出来なくなり、作業中の安全を確保出来ます。出来るだけボンネットスイッチの取り付け、配線を行って下さい。取り付けに関しては、ボンネットスイッチ付帯の取付説明書をよくお読み下さい。

■ドアスイッチ配線を行う場合

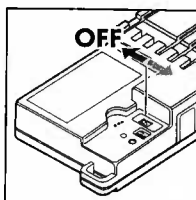


●ドアスイッチの配線を行う事により、リモコンでのエンジン始動中に、運転席のドアを開けるとエンジンを停止させる事が出来るようになります。

STEP-1

●一旦本体のパワースイッチを切ります。

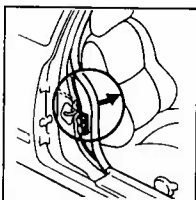
し端子配線等を行った車両は、安全センサーケーブルが本体に接続されているので、一旦外して下さい。



STEP-2

●運転席のドアスイッチ配線を探します。

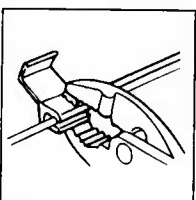
ドアを開けた時は0V、閉めた時に12Vとなる線です。(必ずテスターをご使用下さい。)



STEP-3

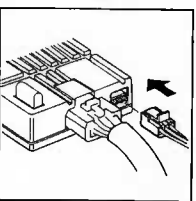
●安全センサーケーブルの茶色線を接続します。

安全センサーケーブルの茶色線は、ボンネットスイッチ配線と共用になっています。ボンネットスイッチを取り付けない場合には、茶色線のギボン端子を、ニッパ等で切断し付属のエレクトロタップで接続します。



STEP-4

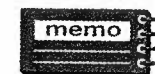
●安全センサーケーブルを本体に接続します。



OK

以上でドアスイッチ配線は終了です。

パワースイッチをONにしてドアを閉じた状態で、リモコンでエンジン始動後、ドアを開けてエンジンが停止する事を確認して下さい。



お車の半ドア警告灯やルームランプを点灯させる為の線です。

●各種機能

■キー始動学習設定

セル時間
延長

ABS
警告灯対応



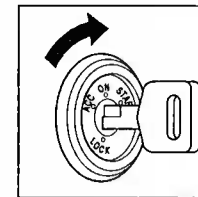
●キー始動学習機能を行う事により、リモコン始動時のABS警告灯等の未消灯対策やセルモーター駆動時間の学習登録を行う事が出来ます。

⚠注意

この時、エンジンは始動させないで下さい。

STEP-1

●キーをONの位置にします。



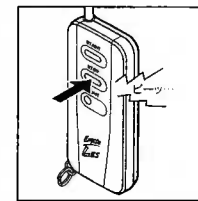
⚠注意

10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。一旦、キーをOFFの位置に戻し、STEP-1からやり直して下さい。

STEP-2

●上記操作後10秒以内にリモコンのストップスイッチを押します。

本体から断続音(ブブブブ...)が鳴ります。



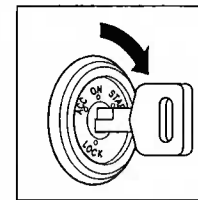
⚠注意

30秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。(本体から“ビービー”という警告音がします。)又、セルモーター駆動後も受付音(ブブブブ...)がせず、断続音(ブブブブ...)が継続されている場合には、一旦、キーをOFFの位置に戻し、STEP-1からやり直して下さい。

STEP-3

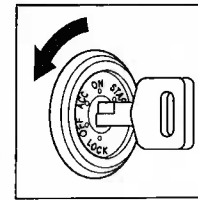
●上記操作後30秒以内にキー操作でエンジンを始動します。

本体から受付音(ブブブブ...)がしてキー始動学習が行われた事を知らせます。セルモーターの駆動時間は「0.8~2.5秒」の範囲で学習され、リモコン始動時、1回目のセル駆動時間に登録されます。(2回目、3回目も通常通り延長されます。)よって、通常使用時と同一環境下で学習を行うと効果的です。



STEP-4

●キーをOFFの位置にします。



OK

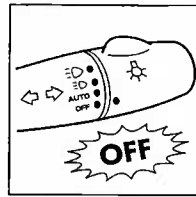
以上でキー始動学習設定は終了です。

●ご使用上の注意

●純正オートライト装着車について。

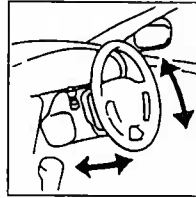
純正オートライト装着車は、夜間(暗い場所)でのリモコンエンジン始動時のライト点灯を防ぐ為、お車を駐車する際は、ライトスイッチをOFFにご使用下さい。又、「AUTO」ポジションで夜間(暗い場所)にリモコンエンジン始動(ターボタイマー作動)を行うと、自動停止やリモコンによるエンジン停止後もライトが消灯しないお車(主にトヨタ・日産車)はバッテリー上がりの原因となりますのでご注意ください。

※別売りのアダプターをお取り付け頂く事で、「AUTO」ポジションでご使用出来るお車もあります。



●純正オートチルト装着車について。

リモコンでエンジン始動中、乗車してキーを差し込んでも純正オートチルトが作動しないお車は、リモコンでエンジンを止めてキーでエンジンを始動して下さい。これは、純正オートチルト及びマイコンプリセットの仕様によるもので、異常ではありません。尚、ドアスイッチへの配線を行う事で、ドアを開けると同時にエンジンを停止させる事も出来ます。詳しくは16ページの「ドアスイッチ配線を行う場合」を参照して下さい。

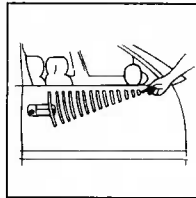


●純正キーレス(リモコンドアロック)装着車について。

リモコンでエンジン始動中、純正キーレス操作が出来ないお車は、リモコンでエンジンを停止してから操作を行うか、キーを使ってドアを開閉して下さい。これは純正キーレスの仕様によるもので、異常ではありません。エンスタでは別売りのアダプターをお取り付け頂く事で、エンスタによるエンジン始動中もエンスタのリモコンで、ドアのロック/アンロックが操作出来るようになります(一部の車種を除く)。

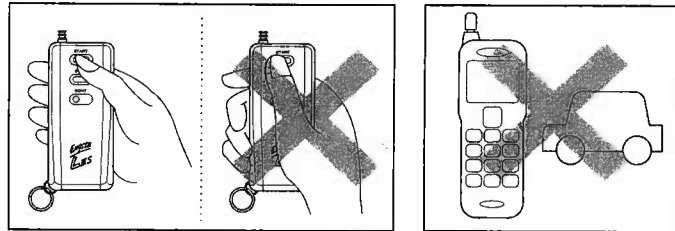
注: リモコンドアロックの制御には、別売りの「ドアロックキット(汎用キット又は専用ハーネス)」が必要です。又、別売りのドアロック連動の「ハザード点滅キット」を併用すると、ハザードを点滅(ロック:1回 アンロック:2回)させることも出来ます。

※詳細は、最新の弊社「車種別専用ハーネス対応表」の「ドアロック車種別対応表」の最新情報をご覧の上、ご確認ください。



●リモコン送信について。

送信時にリモコンを手で覆うと送信距離(電波到達距離)は半減しますので、ご注意ください。又、通話中の携帯電話やPHSのすぐ側に本体があると、始動距離が短くなる事があります。



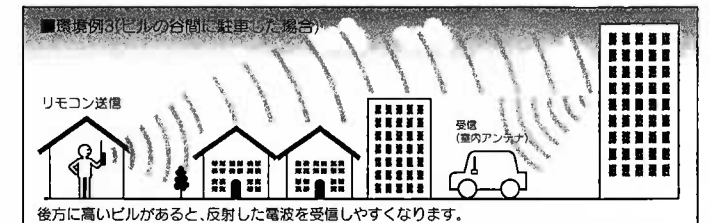
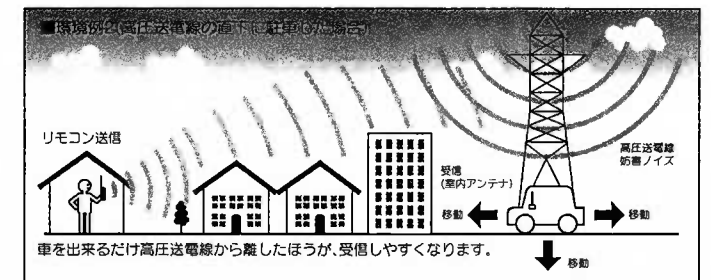
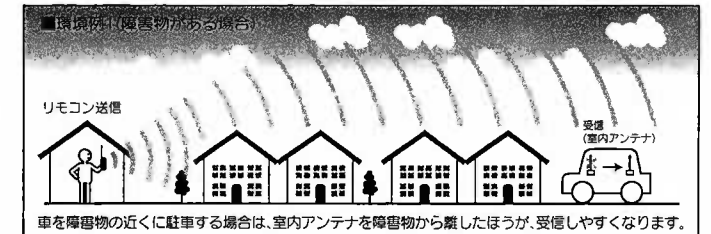
●ご使用上の注意

●電波到達距離について。

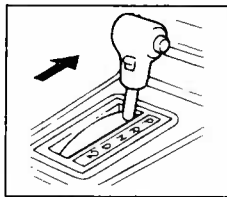
電波到達距離は、周囲の環境、室内アンテナの設置状態、リモコンの扱い方等によって変化します。一般的に、TV局や大出力の無線設備、高圧送電線のノイズ発生源付近では、電波到達距離は短くなります。又、送信(リモコン)場所と車(本体)との間に鉄筋コンクリートの建築物がある場合も、電波到達距離は短くなります。

効率良く電波を送信し、電波到達距離を伸ばすには、

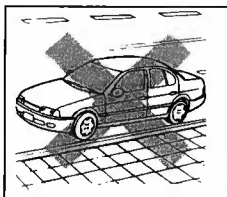
1. リモコンを持つ手を上に伸ばして送信したり、二階から送信する等、リモコン送信を高い位置から行くと、電波が到達(受信)しやすくなります。
2. 駐車場が近くても障害物がある場合は、屋外からリモコン送信するか、送信時に窓を開けると電波が到達(受信)しやすくなります。特に、鉄線の入ったガラスは、電波が透過しづらいのでご注意ください。



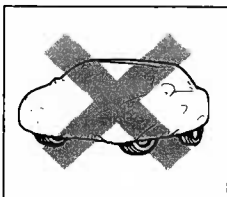
●ご使用上の注意



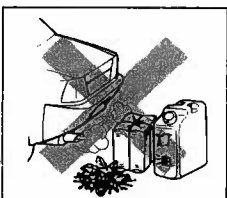
注意
シフトレバーは必ずPレンジに入れて駐車して下さい。(リモコンでエンジン始動を行った場合には、Pレンジ以外でもキーが抜ける事があります。)パーキングブレーキは必ずかけて下さい。



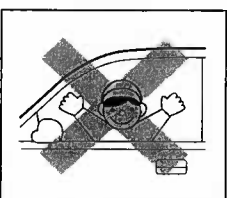
警告
公道上ではご使用にならないで下さい。必ず駐車場、又は私有地内でご使用下さい。(公道上での使用は違法となります。)



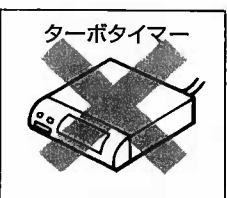
危険
お車にボディーカバー等を掛けたままでご使用にならないで下さい。(火災の恐れがあります。)



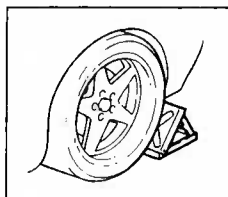
危険
リモコンでエンジンを始動する時は、車の近くに可燃物が無い事を確認してからご使用下さい。(火災の恐れがあります。)



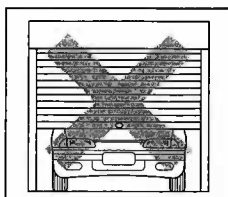
危険
人(特にお子様)やペットが車室内にいる時は、絶対にエンジンを始動しないで下さい。(お子様による車両の操作やペットの思わぬ動きが重大事故につながる恐れがあります。)



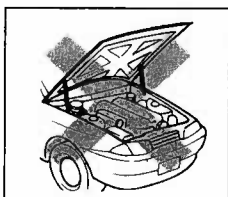
注意
他社製エンジンスターターやターボタイマーとの併用は、絶対にしないで下さい。(故障や誤動作の原因となります。)



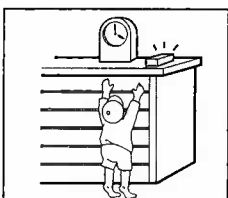
注意
斜面で使用される場合は、必ず輪止めをして下さい。



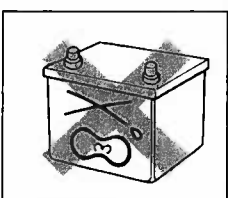
危険
密閉されたガレージ内ではご使用にならないで下さい。(排気ガスが充満して危険です。)



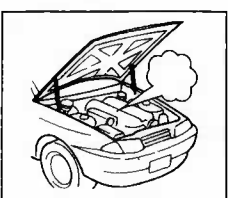
危険
ボンネットを開ける時は本体のパワースイッチを切ってください。又は別売のボンネットスイッチを取り付けて下さい。(事故の恐れがあります。)



危険
リモコンは、お子様の手の届く所には、置かないで下さい。(事故の恐れがあります。)

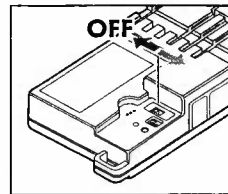


注意
バッテリーの弱っているお車や改造車では、正常にエンジン始動出来ない場合があります。



注意
暖気運転を行った直後に運行前点検を行うと火傷をする恐れがあります。エンジンを停止後、火傷の恐れのない事を確認してから運行前点検を行って下さい。

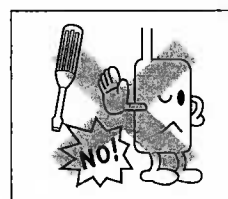
●ご使用上の注意



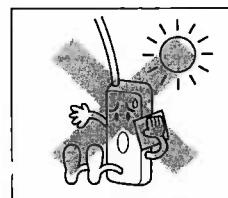
危険
下記の場合には、パワースイッチを切ってください。
●整備、車検等でお車をお預けになる場合。
●当商品の取り扱い方を知らない方が運転する場合。(事故の恐れがあります。)



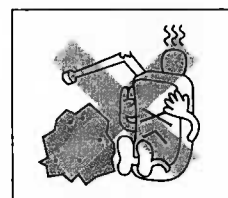
注意
環境保護の為、必要以上のアイドリングは、行わないで下さい。



警告
この商品は特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けております。分解・改造する事は法律で禁じられています。(絶対にしないで下さい。)



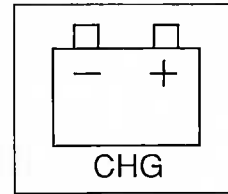
注意
リモコンは、高温になる場所には放置しないで下さい。(変形、変色や故障の原因となります。)



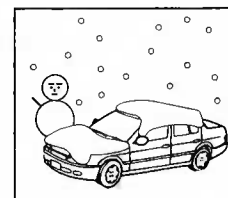
注意
リモコンを落としたり、硬いものにぶつけないで下さい。(故障の原因となります。)



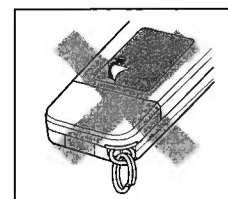
警告
リモコン及び本体が汚れた場合は、薄めた中性洗剤をしみ込ませた布をよくしぼってからふき、乾いた布でもう一度ふいて下さい。ベンジン、シンナー等は絶対にご使用にならないで下さい。(変形、変色や故障の原因となります。)



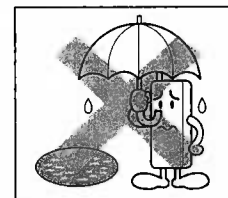
注意
キーでエンジンを始動した後に車両の充電警告灯が消えない場合には、エンジンスターターを使用せずに車両の点検整備をして下さい。



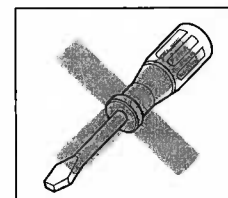
注意
寒冷地ではエンジンがかかりにくい事があります。キー操作のみで3秒以内にエンジンが始動するように車両を整備して下さい。



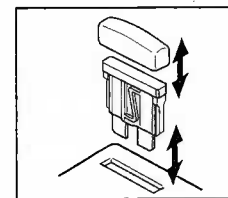
警告
認証ラベルを剥がしたり、ラベルの無いものを使用する事は法律で禁じられています。(絶対にしないで下さい。)



注意
リモコン、及び本体は水に濡らさないで下さい。又、雨や雪などがつかからないようにご注意下さい。(故障の原因となります。)



注意
本体の内部に物を入れないで下さい。(故障の原因となります。)又、分解・改造はしないで下さい。(保証出来ません。)



注意
ヒューズ切れの前後は高温となりますので、交換には充分注意して下さい。又、交換作業等でのヒューズキャップ付け忘れや、取り外したままの使用は危険です。必ずキャップをして、ご使用下さい。

●ご使用方法

⚠注意

陸揚時に、下記的事を確認して下さい。

- 1.パーキングブレーキを確実にかける。
- 2.シフトレバーはPレンジに入れる。

3.必要に応じて、エアコン(ヒーター)をセットする。

4.キーを抜く。
●車両によってはPレンジ以外でキーが抜ける場合がありますのでご注意ください。

⚠注意

純正オートチルト装置車でドア配線をしていない場合は、一旦エンジンを止めて、再度キーにてエンジン始動を行ってください。

⚠注意

シフト操作を行わずにキーをOFFにしてもエンジンは停止しません。

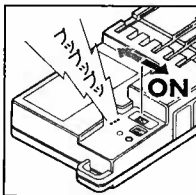
⚠注意

キーを廻す際に、誤ってSTTの位置まで廻すとセルモーターを痛める恐れがあります。

■リモコンでエンジン始動

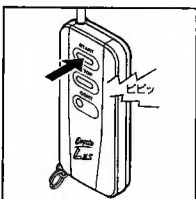
STEP-1 ●本体のパワースイッチをONにします。

本体から音(ブブブブ)が鳴ります。



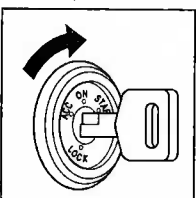
STEP-2 ●リモコンでエンジンを始動します。

リモコンのロッドアンテナを、最後まで引き伸ばして、スタートスイッチを音(ビピッ)が鳴るまで押します。数秒後、セルモーターが廻りエンジンが始動します。一度で始動しない場合は、3回まで自動的に再始動(リトライ)します。又、リモコンによるエンジン駆動中は、本体から警告音(ブツ)が数秒間隔で鳴り続け、使用者にキー以外のエンジン始動を知らせます。



STEP-3 ●走行します。

お車のキーを差し込み、ONの位置まで廻して下さい。後は通常通り走行出来ます。尚、ドアスイッチへの配線を行っている場合、ドアを開けるとエンジンは停止しますので、キーにて再度エンジン始動して下さい。



■リモコンでエンジン停止

STEP-1 ●リモコンによるエンジン駆動中は、リモコンのストップスイッチを音(ピーッ)が鳴るまで押す事で、ただちにエンジンを停止させることが出来ます。

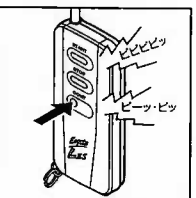
■タイマーで自動停止

STEP-1 ●リモコンによるエンジン始動後、約20分(設定により10分/30分変更可能)*でエンジンは自動停止します。

*詳しくは、25ページの「アイドリング時間(10分/20分/30分)の設定」を参照して下さい。

■リモコンで外部機器制御

STEP-1 ●リモコンのCONTスイッチを音、(ビビビビッ又はピーッ・ビッ)が鳴るまで押す事で、外部機器(アダプター)を制御出来ます。詳しくは30ページの「別売りアダプター」をご覧ください。



●ご使用方法

⚠注意

「本体動作の停止」を行うと「本体動作の復帰」を行うまで全ての動作が停止します。パワースイッチ操作では復帰しません。



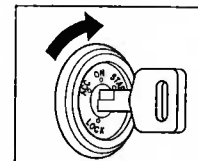
車検等で車を整備工場にお預けになる場合や、お取り扱いの判らない方が運転される場合に、ご使用下さい。

■本体動作の停止



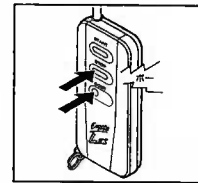
●リモコン操作により、本体の全ての機能を停止させる事が出来ます。

STEP-1 ●キーを差し込みONの位置にします。

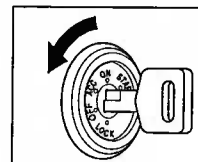


STEP-2 ●上記操作後5秒以内にリモコンのCONTスイッチとストップスイッチを同時に、音(ボーツ)が鳴るまで約5秒間押し続けます。

本体から反応音(ブーツ)が鳴り、本体の全ての機能が停止します。



STEP-3 ●キーをOFFの位置にして、抜き取ります。

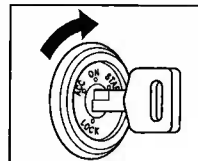


■本体動作の復帰



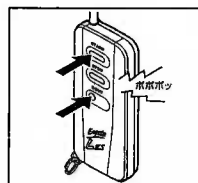
●リモコン操作により、本体全ての機能を復帰させる事が出来ます。

STEP-1 ●キーを差し込みONの位置にします。

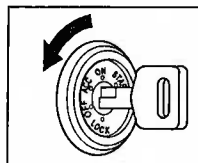


STEP-2 ●上記操作後5秒以内にリモコンのCONTスイッチとスタートスイッチを同時に、音(ボボボツ)が鳴るまで約5秒間押し続けます。

本体から反応音(ブブブ)が鳴り、本体の全ての機能が復帰します。



STEP-3 ●キーをOFFの位置にして、抜き取ります。



●ご使用方法

⚠ 注意

この時、エンジンは始動させないで下さい。

⚠ 注意

リモコンのスイッチは、反応音があったら離して下さい。押し続けると、2~3秒後に再度ストップ信号が送られ、ターボタイマーの設定が解除されます。

⚠ 注意

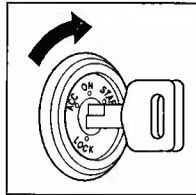
30秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。(本体から「ピーピー」という警告音がします。)



お取り付け時のターボタイマーは、「解除状態」です。

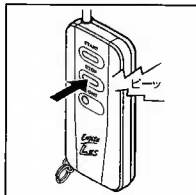
■ターボタイマーの設定/解除

STEP-1 ●キーを差し込みONの位置にします。



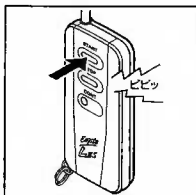
STEP-2 ●上記操作後10秒以内にリモコンのストップスイッチを音(ビーツ)が鳴るまで押します。

本体から断続音(ブブブブ...)が鳴ります。

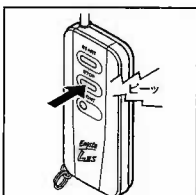


STEP-3 ●上記操作後30秒以内に次の操作を行います。

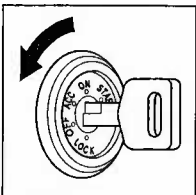
(1)ターボタイマーを設定する場合。
リモコンのスタートスイッチを音(ビビッ)が鳴るまで押します。
本体から受付音(ブブブブ)が鳴り、ターボタイマーが設定されます。



(2)ターボタイマー設定を解除する場合。
リモコンのストップスイッチを音(ビーツ)が鳴るまで押します。
本体から受付音(ブブブブ)が鳴り、ターボタイマーの設定が解除されます。



STEP-4 ●キーをOFFの位置にします。



OK 以上でターボタイマーの設定/解除は終了です。

●ご使用方法

⚠ 注意

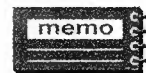
この時、エンジンは始動させないで下さい。

⚠ 注意

リモコンのスイッチは、反応音があったら離して下さい。押し続けると、2~3秒後に再度スタート信号が送信され、「30分」に設定されます。

⚠ 注意

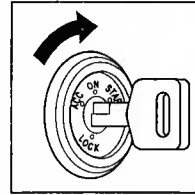
30秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。(本体から「ピーピー」という警告音がします。)



お取り付け時のアイドリング時間は、「20分状態」です。

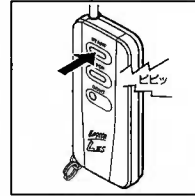
■アイドリング時間(10分/20分/30分)の設定

STEP-1 ●キーを差し込みONの位置にします。



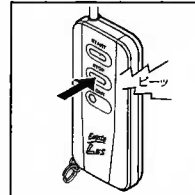
STEP-2 ●上記操作後10秒以内にリモコンのスタートスイッチを音(ビビッ)が鳴るまで押します。

本体から断続音(ブブブブ...)が鳴ります。

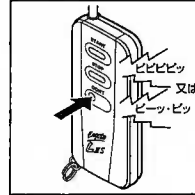


STEP-3 ●上記操作後30秒以内に次の操作を行います。

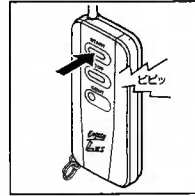
(1)「10分」に設定する場合。
リモコンのストップスイッチを音(ビビッ)が鳴るまで押します。
本体から受付音(ブー)が鳴ります。



(2)「20分」に設定する場合。
リモコンのCONTスイッチを音(ビビビッ)又はビーツ・ビーツが鳴るまで押します。
本体から受付音(ブー)が鳴ります。

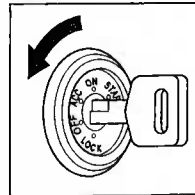


(3)「30分」に設定する場合。
リモコンのスタートスイッチを音(ビビッ)が鳴るまで押します。
本体から受付音(ブーブー)が鳴ります。

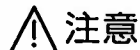


STEP-4 ●キーをOFFの位置にします。

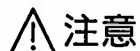
OK 以上でアイドリング時間の設定は終了です。



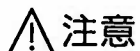
●ご使用方法



注意
この時、エンジンは始動させないで下さい。



注意
リモコンのスイッチは、反応音があつたら離して下さい。押し続けると、2～3秒後に再度ストップ信号が送信され、ターボタイマーの設定が解除されます。



注意
30秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。(本体から“ピーピー”という警告音がします。)



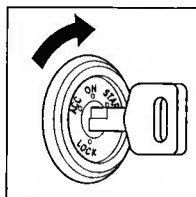
お取り付け時の始動パターンは、「ガソリン車/グローの短いディーゼル車状態」です。

■始動パターンの切替(ガソリン車/ディーゼル車) — 始動パターン切替



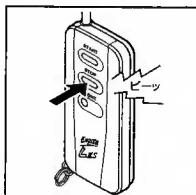
- 一部のディーゼル車等で、グロー(予熱時間)が必要な場合、以下の操作をする事により設定する事が出来ます。

STEP-1 ●キーを差し込みONの位置にします。



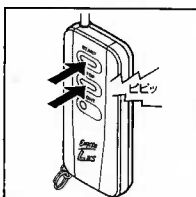
STEP-2 ●上記操作後10秒以内にリモコンのストップスイッチを音(ビーツ)が鳴るまで押します。

本体から断続音(ブブブブ…)が鳴ります。

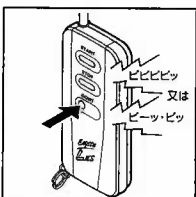


STEP-3 ●上記操作後30秒以内に次の操作を行います。

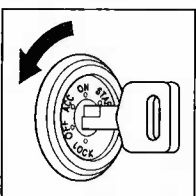
(1)「ディーゼル車(グロー6秒程度)」に設定する場合。
リモコンのスタートスイッチとストップスイッチを同時に音(ビビビ)が鳴るまで押します。本体から受付音(ブービー)が鳴ります。



(2)「ガソリン車/グローの短いディーゼル車」に設定する場合。
リモコンのCONTスイッチを音(ビビビビ)又はビーツ・ビーツが鳴るまで押します。本体から受付音(ブービー)が鳴ります。



STEP-4 ●キーをOFFの位置にします。



OK 以上で始動パターンの切替は終了です。

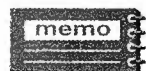
●ご使用方法



注意
必ず安全な状態で車を駐車して下さい。



車両によってはターボタイマー作動中にキーが抜けない場合があります。この場合は別売の「キーロックアダプター」をご使用下さい。キーロックアダプターを使用すると、Pレンジ以外でも、キーが抜ける場合があります。必ず、Pレンジを確認してからキーを抜いて下さい。



車両によっては正常にターボタイマーが作動しない場合があります。この場合は、別売の「ターボタイマーストール防止アダプター」をご使用下さい。



ターボタイマー時間は、10秒～2分50秒の範囲で自動的に設定されます。

走行時間(分)	ターボタイマー時間(秒)
0～0.5	0
0.5～30	10～55
30～60	60～90
60～120	100～130
120～	140～170

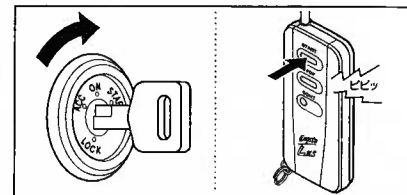
■ターボタイマーの使用方法



- ターボタイマーは、フルオート方式を採用しています。(お車の走行状況に合わせて自動的にアフターアイドルリングの時間が設定されます)又、エンジン始動後30秒未満は、ターボタイマーが働きません。

STEP-1

- キー、又はリモコンでエンジンを始動させます。



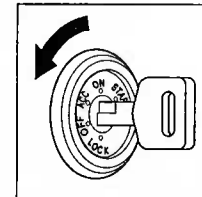
STEP-2

- 走行します。

STEP-3

- 走行終了後、キーをOFFの位置にします。

本体からカウントダウン音(ブツ)が鳴り始め、ターボタイマーの作動中を知らせます。



■リモコンでターボタイマー停止



- ターボタイマー作動中にリモコンのストップスイッチを押す事により、エンジンを停止させる事が出来ます。

■スリープ機能について



- 車を使用しない状態が15日間以上続くと、バッテリーの消耗を抑えるスリープ機能が働きます。スリープ機能が働くと、リモコンによるエンジン始動は出来ません。スリープ機能を解除する時は、本体のパワースイッチを一旦切って入れなおすか、キーを使ってエンジンを始動させて下さい。

●メンテナンス

⚠ 注意

お買い上げの製品にセットされている電池は検査時に機能や性能をチェックするモニター電池の為、短期間の使用で寿命となることがあります。

⚠ 注意

電池交換の際は、2個とも新品の電池(アルカリボタン電池LR44)に交換して下さい。

⚠ 注意

電池の+、-の向きに注意します。



電池交換後は送信テストを行います。

⚠ 注意

専用ハーネスを外したり、整備の際にお車のバッテリーを交換した場合、再度オートマチック車の登録(その他設定)からやり直す必要があります。



IDコードの設定はお手元で行えますので、本体を送り頂く必要はありません。

⚠ 注意

元のリモコンは使用出来なくなります。

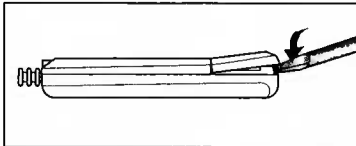
■電池の交換方法



●本商品は、新品の電池で約3,000回以上(通常の使用で2年程度)使用出来るように設計されております。使用中、電波到達距離が短くなってきたら電池を交換して下さい。

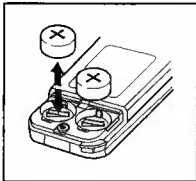
STEP-1

●電池蓋を外します。マイナスドライバー等を利用して、電池蓋と、ケースの溝に差し込み、ひねります。



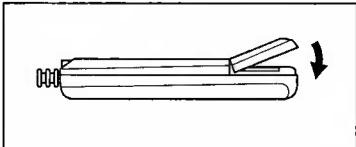
STEP-2

●電池(LR44)を交換します。



STEP-3

●電池蓋を閉じます。外した時と逆の要領で電池蓋を閉じます。



■本体の電源を切る時は



●お車を車検整備に出す時や、旅行等により長期間使用しない場合は安全の為、本体のパワースイッチを切ってください。尚、本商品はメモリーセーブ機能を採用しております。再度お使いになる場合、パワースイッチをONにするだけでご使用出来ます。



●リモコンを紛失又は破損(修理不可能の場合)した場合は、リモコンのみの購入が出来ます。この場合、新しいリモコンのIDコードを本体に登録する必要があります。詳しくは、リモコン付帯の説明書をご覧ください。

(リモコンは、販売店又は取扱店へご注文下さい。希望小売価格10,290円(税込))

●故障とお考えになる前に

このような時	チェックして下さい	処置
・リモコンのスタートスイッチを押しても音が鳴らない	・スイッチを押す時間が短くありませんか? ・リモコンの電池は消耗していませんか?	・0.5秒以上スイッチを押して下さい ・電池を新品に交換して下さい
・本体から「ブーブ、ブーブ…」音が鳴っていて、リモコンのスタートボタンを押しても、まったく作動しない	・バッテリー端子を外したり、バッテリー交換を行いましたか? ・ヒューズ交換、専用ハーネスとのカブラー脱着及び黒色アース線の再接続を行いましたか?	・オートマチック車の登録情報が消去されています 再度「オートマチック車の登録」を行ってください ・オートマチック車の登録情報が消去されています 再度「オートマチック車の登録」を行ってください
・オートマチック車の登録は行っただが、リモコンのスタートスイッチを押してもまったく作動しない	・本体のパワースイッチはONになっていますか? ・「本体動作の停止」の設定をされていますか? ・音(ビビッ)がするまでスタートスイッチを押していますか? ・お車のキーがONになっていますか? ・リモコンのアンテナを伸ばしていますか? ・室内アンテナのアンテナプラグが外れていませんか? ・リモコンの電池は消耗していませんか? ・車両のバッテリー端子が外れていませんか? ・15日以上エンジンの始動を行わない状態でしたか? ・お車のバッテリーは弱っていませんか? ・運転席のドアスイッチへの配線(任意)を行って、ドアを開いていませんか? ・ボンネットスイッチ(オプション)の配線を行ってボンネットを開いていませんか? ・ドアスイッチへの配線(任意)が間違っていますか? ・フットブレーキへの配線(必要時)が間違っていますか?	・本体のパワースイッチをONにしてください ・「本体動作の復帰」の設定を行ってください ・音(ビビッ)がするまで押して下さい ・キーを抜いて下さい ・アンテナを伸ばして下さい ・アンテナプラグを差し込んで下さい ・電池を新品に交換して下さい ・端子を接続し「オートマチック車の登録」を行ってください ・スリープモードになっています。本体のパワースイッチを一旦切っただけで、キー操作でエンジンを始動させて下さい ・お車のバッテリーを充電して下さい ・ドアを開けて下さい ・ボンネットを開けて下さい
・リモコンのスタートスイッチを押すとメーターパネルは点灯するが始動しない	・お車のシフトレバーがPレンジに入っていますか? ・お車のバッテリーは弱っていませんか? ・専用ハーネスの品番は正しいですか?	・シフトレバーをPレンジに入れて下さい ・お車のバッテリーを充電して下さい ・車種別専用ハーネス適応表を再度確認して下さい
・リモコンのスタートスイッチを押してもエンジンが始動せず、再始動(リトライ)を行う	・オルタネーター(L端子)配線を行いましたか? ・お車のバッテリーは弱っていませんか? ・セルモーターの駆動時間が短くありませんか?	・オルタネーター(L端子)配線を行ってください ・お車のバッテリーを充電して下さい ・「キ-始動学習」を行ってセルモーターの駆動時間を延長して下さい
・リモコンのスタートスイッチを押すと、一旦エンジンは始動するが、10秒位で停止してしまい、再始動(リトライ)を行う	・オルタネーター(L端子)配線を行っていますか?	・オルタネーター(L端子)配線を行ってください。又、正常に配線されているかを「L端子誤配線チェック機能」で確認して下さい
・本体の電源が入らない	・本体のヒューズが切れていませんか? ・専用ハーネスのカブラーが外れていませんか? ・専用ハーネスの黒線(アース線)が外れていませんか?	・ヒューズを交換して下さい ・カブラーを確実に差し込んで下さい ・黒線(アース線)を確実に接続して下さい
・始動距離が短くなった	・リモコンの電池は消耗していませんか? ・リモコンのアンテナに体の一部が触れていませんか? ・リモコンのアンテナを伸ばしていますか? ・室内アンテナのアンテナプラグが本体から外れていませんか? ・周囲の環境は変化していませんか?	・電池を新品に交換して下さい ・送信の際はアンテナに触れないようにして下さい ・アンテナを伸ばして下さい ・アンテナプラグを差し込んで下さい ・19ページの「電波到達距離について」を参照して下さい
・ターボタイマーが作動しない	・ターボタイマーの設定を行っていますか? ・エンジンを30秒以上始動させましたか? ・フットブレーキへの配線(必要時)を行っており、フットブレーキを踏んだままキーをOFFにしていますか? ・お車のシフトレバーがPレンジに入っていますか? ・ボンネットスイッチ(オプション)の配線を行ってボンネットを開いていませんか?	・ターボタイマーの設定をして下さい ・30秒以上始動して下さい ・フットブレーキを踏まずにキーをOFFにして下さい ・シフトレバーをPレンジに入れて下さい ・ボンネットを開けて下さい
・リモコンのスタートスイッチを押してもエンジンが始動せず、警告音(ピー・・・ピー・・・)が鳴り続ける	・シフトレバーがPレンジに入っていますか? ・お車のキーがACCになっていませんか? ・専用ハーネスの品番は正しいですか?	・シフトレバーをPレンジに入れて下さい ・キーを抜いて下さい ・車種別専用ハーネス適応表(別冊)を再度確認して下さい。 お車の車種名・年式・型式をハーネス適応表に照合後、品番が正しい場合は技術サービスまでお問い合わせ下さい ★警告音はキーをONにすれば停止します

仕様

●リモコン

■型式名	0023T
■技術基準	R/C標準規格 テレコントロール用 無線送信機適合
■送信周波数	426MHz帯の10波のうち1波使用
■送信方式	準方向送信方式
■送信出力	1mW以下
■電波方式	MSK変調1200bps
■呼出名称	送信機自動送出手
■周波数安定度	±4ppm以下
■周波数偏移	±2.5kHz以内
■スイッチ	スタート/ストップ/コントロール
■質量	20g(電池含む)
■送信機方式	プザー
■送信時間	3秒以内
■送信休止時間	2秒以上
■送信アンテナ	内蔵ロッドアンテナ
■制御コード	アドレスコード32ビット/ コントロールコード8ビット
■動作温度範囲	-20°C~+60°C
■定格電圧	DC3V
■使用電池	アルカリボタン電池 LR44×2個
■電池寿命	電池交換無しで3000回以上送信可能
■外形寸法	66.5mm(H)×29mm(W)×12mm(D) (突起物除く)

●本体

■型式名	0025R
■受信周波数	426MHz帯の10波のうち1波使用
■受信感度	-9dbμV以下
■追尾安定度	±4ppm以下
■アンテナ	1/4λ 室内アンテナ
■動作温度範囲	-20°C~+70°C
■制御コード	アドレスコード32ビット/ コントロールコード8ビット
■電源電圧	最低動作電圧DC8.5V 最高動作電圧DC16V
■パワー系制御電流	突入電流80A 最大電流20A
■外形寸法	32mm(H)×120mm(W)×70mm(D) (突起物除く)
■消費電力	通常待機時平均7mA以下 スリープモード時700μA
■始動検出	専用ハーネス(自動) オルタネーターL端子(選択) パークポジション(自動) フットブレーキ(選択)
■安全対策	ドア開放(任意)、ボンネット開放(任意) 自動車用ブレードヒューズ25A
■ヒューズ	20分後自動停止(設定により10分/30分変更可能)
■タイマー	140g
■質量	140g

仕様及び外観は、改良の為予告なく変更する事があります。

●別売りアダプター

※C203とC204又はEDXXXの同時装着は出来ません。
適応及び詳細は最新の弊社「車種別専用ハーネス適応表」をご参照下さい。

品番	品名	機能概要	販売小売価格 (税別)
C201	ターボタイマー ストール防止アダプター	ターボタイマー作動開始時のエンジンストール(エンジン停止)やメーターパネルの警告灯が一瞬点灯する事を回避するアダプターです。	¥1,890 <税別価格 ¥1,890>
C203	ホーネット操作アダプター	本機のリモコンでホーネットのセット/サイレン停止(解除)を行う事が出来るようになります。尚、ホーネットの各種センサーの設定、感度調整等は行えません。 ※ホーネットは加藤電機(株)の登録商標です。	¥7,140 <税別価格 ¥6,800>
C204	ドアロック汎用キット(マイナス制御)	本機のリモコンでドアロック・アンロック(アクチュエーター搭載車限定)の制御を行うドアロック汎用キット及び、ドアロック車種別専用ハーネスです。又、本キットは「ハザード点滅キット」との併用も可能です。	¥3,990 <税別価格 ¥3,990>
EDXXX	ドアロック車種別専用ハーネス		¥7,140~ <税別価格 ¥6,800>
1262	ハザード点滅キット(汎用)	ドアロック汎用キット(C204)及び、ドアロック車種別専用ハーネス(EDXXX)と併用するハザード点滅キット(汎用)です。併用すると、ドアロックの操作に連動して、ハザードが点滅(ロック1回・アンロック2回)致します。	¥8,190 <税別価格 ¥7,800>
1263	電子音+ハザード点滅キット (汎用)	ドアロック汎用キット(C204)及び、ドアロック車種別専用ハーネス(EDXXX)と併用する電子音+ハザード点滅キット(汎用)です。併用すると、ドアロックの操作に連動して、電子音の吹鳴とハザードが点滅(ロック1回・アンロック2回)致します。	¥9,240 <税別価格 ¥8,800>
C205	オートライトアダプター	リモコン始動時に純正オートライトで点灯したライトをエンジン停止時に消灯させるアダプターです。適応は夜間(暗い場所)にキーでエンジン始動した際、自動的にライトが点灯(ライトスイッチがAUTOの場合)し、エンジン停止後、運転席のドアを開けた時に消灯するお車となります。(一部車種を除く)尚、エンジン停止時にライトが消灯するお車には不要です。	¥2,940 <税別価格 ¥2,600>
C207	ボンネットスイッチ	ボンネット開閉検出用スイッチです。ボンネットを開けている時は、リモコン始動を受け付けません。エンジンルームの整備作業を行っている時にエンジンが始動してしまうと、重大事故が発生する恐れがあります。標準装備の安全機能(シフト位置検出、ドアオープン検出、フットブレーキ検出)に加えて、より高い安全性を確保する為にご使用をお勧めします。	¥2,940 <税別価格 ¥2,600>
C303 C304 C305	イモビアダプター	純正イモビライザー搭載車のイモビライザー機能を損なわずに、リモコンエンジンスタートのエンジン始動を有効にするアダプターです。 △お取り付けには純正イモビライザー解除可能なスペアキーが必要です。 △ご契約の車両保険によっては盗難割引等に影響する場合がありますので、ご契約された保険会社に必ず確認して下さい。 △本アダプター取付後に万一盗難等の損害が発生しても責任は一切負いかねますのでご了承下さい。	¥6,090 <税別価格 ¥5,800>
N221	日産キーロックアダプター	ターボタイマーの動作中にキーが抜ける事を回避するアダプターです。	¥3,780 <税別価格 ¥3,600>
H241	ホンダレジェンド用 DPSアダプター	リモコン始動時にDPS(ドライビングポジションシステム)のチルトステアリングのAUTO表示灯が点灯したままになる事を回避するアダプターです。	¥3,990 <税別価格 ¥3,800>

●アフターサービスについて



●使用中に正常に動作しなくなった時は、まず本文の「故障とお考えになる前に」を参考にしてチェックして下さい。「処置」を行っても改善が見られない時は、お買い上げ店を経由して当社技術サービスにお申し付け下さい。



●本商品を修理依頼される場合は、①保証書 ②本体 ③リモコン ④故障内容・状況を明記したメモの4点をセットにして、お買い上げ店へ直接ご持参下さい。



●保証期間を過ぎた場合は、住所・氏名・電話番号を明記し、上記とセットでお買い上げ店へ直接ご持参下さい。尚、この場合は有償修理となります。

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

〈保証規定〉

本商品は、厳重な品質管理のもとに製造され、検査に合格し、出荷されておりますが、お客様の正常な状態での使用中、万一故障が発生した場合には、本保証書の記載内容に基づき、無償修理をさせていただきます。

- 修理は、お買い求め頂いた販売店に、本保証書および不具合内容等を記入したメモ等を添えてご依頼願います。
- 又、修理の際は必ずリモコンと本体をセットでお渡し下さい。(リモコンのみでは修理出来ません)
- この保証書は日本国内に於いてのみ有効です。This warranty is valid only in japan.
- 本保証書は再発行いたしませんので、大切に保管して下さい。
- お客様のご意又は過失による故障と認められた場合、
- 1. お客様の故意又は過失による故障と認められた場合、
- 2. 商品を分解したり改造したりした形跡が認められた場合、
- 3. 火災、天災、事故、その他紛争等による損傷、
- 4. 適応外車種へのお取り付けや当社専用ハーネスをお使いになっていない場合、
- 5. 取付・取扱説明書中の注意事項を守らなかった事により発生した故障、損傷等、
- 6. 保証書の添付がないか、あるいは記載事項に不足がある場合、
- 消耗部品(電池、アンテナ等)やリモコンのケース破損は保証対象外です。
- 修理によって生じた交換部品は原則としてお返しいたしません。
- 本商品の製造終了5年以降は使用電子部品の製造中止等により修理不能になる場合がありますので予めご了承下さい。
- ※保証期間経過後の修理については、お買い求め頂いた販売店又は当社までご相談下さい。
- 修理によって機能の維持が可能な場合は、お客様の要望により有償修理致します。